現職教員と教員志望学生の児童・生徒観および指導行動に関する研究（12）
—改良版授業観尺度と改良版学習指導行動尺度との関連の検討—

○崎濱秀行（阪南大学）　藤田 正（奈良教育大学）
林 龍平 （関西福祉科学大学）

キーワード：児童・生徒中心的な視点，教師中心的な視点，両視点の併存

問題と目的

本研究の目的は，研究（10）・研究（11）で用いた，改良版児童・生徒観尺度および改良版学習指導行動尺度の下位尺度間の関連を検討することである。

崎濱・林・藤田（2016）では児童・生徒観尺度と学習指導行動尺度の作成を行った。その際，両尺度の下位尺度間の関連についても検討を加えた。その結果，「学習指導性（児童・生徒観尺度）」－「学習指導行動（学習指導行動尺度）」間の相関が有意であり，児童・生徒中心的な児童・生徒観を有しているほど児童・生徒中心的な学習指導行動を重視する傾向があることが示された。

しかしながら，研究（10）の結果は崎濱らと方向性が同じではあるものの，下位尺度が「学習指導性」「自律・自己統制性」の２側面に集約されたことから，抽出された下位尺度の構造には異なりが見られた。また，研究（11）においては，学習指導行動について「児童・生徒中心的学習指導行動」「教師中心的学習指導行動」の２側面が見出だされた。このことから，各々の学習指導行動と児童・生徒観のどの側面との間に関連が見られるのかを検討する必要があろう。また，研究（10）および（11）の指摘を踏まえると，児童・生徒観の下位尺度間および学習指導行動の下位尺度間で何らかの関連が見られるのかどうかについても検討が必要であろう。

以上を踏まえ，本研究では両尺度および各尺度の下位尺度間の関連について検討を加えることとした。

方　法

調査参加者　近畿地方の大学生118名（男性43名，女性75名，平均年齢19.7歳）。

材料　改良版児童・生徒観尺度および改良版学習指導行動尺度を用いた。いずれも，崎濱ら（2016）を単一項目化したものであり，回答者に対し，各々の項目について，1（まったくあてはまらない）～4（非常によくあてはまる）の４件法で回答するよう求めた。本研究では，研究（10）で抽出された「学習指導性」「自律・自己統制性」（改良版児童・生徒観尺度），研究（11）で抽出された「児童・生徒中心的学習指導行動」「教師中心的学習指導行動」（改良版学習指導行動尺度）間の関連，および，各尺度内の下位尺度間の関連について検討した。

手続き　本研究はwebを通して行われた。調査実施にあたっては，教育心理学に関する授業にて，調査の目的および調査への回答を呼びかける紙面を配布した。その上で，回答に同意した者だけが回答するよう求めた。

結果と考察

SPSS Ver. 25.0にて行った因子分析により抽出された下位尺度を構成する項目の平均値を求め，下位尺度得点とした。この下位尺度得点を用いて，ピアソンの積率相関係数を算出し，下位尺度間の関連を検討した。その結果，「学習指導性」—「児童・生徒中心的学習指導行動」間で中程度の相関が見られた（r=0.46 p>.01）。このことから，児童・生徒中心的な児童・生徒観を有するほど児童・生徒中心的な学習指導行動を重視する傾向があることが考えられる。また，「自律・自己統制性」—「教師中心的学習指導行動」間においても中程度の相関が見られた（r=0.33 p>.01）。このことから，「自律・自己統制性」の側面を重視するほど教師中心的な学習指導行動を重視する傾向があることが考えられる。

一方で，各々の尺度内の下位尺度間の関連についても検討を加えたところ，改良版児童・生徒観尺度における「学習指導性」－「自律・自己統制性」間（r=0.24 p<.01），および，改良版学習指導行動尺度における「児童・生徒中心的学習指導行動」—「教師中心的学習指導行動」間（r=0.21 p>.05）の相関も有意であった。弱い相関ながら，児童・生徒中心的な児童・生徒観を有しているほど教師中心的な視点も有していることが伺える。また，児童・生徒中心的な学習指導行動を重視しているほど教師中心的な学習指導行動も重視していることが伺える。

以上の点，および研究（10）・（11）の指摘事項を踏まえると，回答者個々の中において，「児童・生徒中心的」な考え方と「教師中心的」な考え方とが併存していること，学習指導行動についても「児童・生徒中心的」な視点と「教師中心的」な視点とが併存している可能性が考えられる。